

意見陳述

小澤和悦

- 1 私は、1944年（昭和19年）、岩手県で生まれました。
名前の「和悦」は、戦争末期の、戦死者が多くなってきた時期に生まれましたので、お寺の和尚さんが、平和を喜べるような人間になれ、という思いで付けてくれそうです。
こうしたことも影響したのでしょうか、私は、社会人になってか青年運動や原水爆禁止運動、平和運動、そして農民組合運動などに参加するようになりました。
1979年4月には、古川市議会議員に当選し、議員としての活動を始めました。これまで30年間、市議会議員を務めております。

- 2 古川では平和を願う市民の活動が活発です。
毎年8月15日には、市と市民団体との共催で、「平和のつどい」が開催されています。
このつどいには、第2次世界大戦において家族を失った方、戦地で一緒に戦った仲間の兵隊が餓死して行った姿が脳裏から離れないという方、シベリアに抑留された方、平和を望む多くの市民方々が参加しております。私も一人の市民として、こうした活動に積極的に関わってきました。
また、戦後40年の節目の年には、市民の間からの「戦争は絶対しない、世界から原水爆をなくそう」という声の盛り上がり、これに応え、議会では「核兵器廃絶平和のまち古川市宣言」の決議をしました。
この宣言以来、市民の平和を求める思いを大切にし、市議会では、平和や核兵器の問題について、積極的に取り組み、意見書採択の活動などを行ってきました。

- 3 ところが、こうした私たちの活動を、自衛隊の情報保全隊が監視していたのです。私は大変驚き、また恐怖を感じました。
一体、議員の活動や議会の活動、さらには市民の活動の、どこに、監視しなければならないことがあるのでしょうか。情報保全隊の監視対象となった、議会や市民の活動を振り返ってみたいと思います。

ア 2002年12月、古川市議会は「イラクへの武力攻撃に反対し、国連の枠組みでの解決の努力を求める意見書」を全会一致で可決し、関係大臣に送付しました。
当時、アメリカは、フセイン政権を排除するため、大量破壊兵器を保有している疑いがあるなどとして、イラクへの武力攻撃を始めようとしてい

ました。

市民の間では、このままでは、アメリカがイラクに武力攻撃を開始し、世界の平和や、日本の平和が、脅かされるのではないかと懸念する声が上がっていました。こうした中で、議会で意見書を採択しようという動きが出てきました。私は、議案提出者の1人となり、議会の各会派の議員に趣旨を話し、賛同を得るように努めました。

その結果、保守・革新を問わず、全会一致で意見書が採択されました。

イ ところが、私たちの願いに反し、2003年3月20日、アメリカとイギリス軍によるイラク攻撃が始まりました。そして、イラク国民の反米感情の高まりなどにより、戦争は次第に泥沼化して行きました。そのような時に、日本政府は、「イラク復興支援特別措置法」を制定し、自衛隊をイラクに派遣しようとした。

これに対し、戦地に、自衛隊を派遣すべきではない。イラク復興は、あくまでも、国連が中心となって行われるべきである。という声が、市民の中からも、議員の中からも出てきました。

私たちの地域にも、自衛隊に入隊しておられる方や、そのご家族も少なくありません。ご家族は、イラクの戦場に子供が派遣させられるのではないかと、命を失う危険があるのではないかと、という不安をお持ちでした。

私たち、古川市議会は、こうした市民の声に応え、全会一致で「自衛隊のイラク派遣に反対する意見書」を可決しました。

ウ また、イラク戦争が長期化する中で、市民の間から、イラク戦争の実情を知りたいという声や、実情を知らせるべきであるという声が多く聞かれるようになりました。そこで、私たちは、2004年1月20日から28日の間、イラク戦争の実態を撮り続けた写真家である、森住卓氏の写真展を開催しました。

この写真展には、小学校の子供たちや、幼稚園児がたくさん見に来てくれました。戦争に巻き込まれ、焼けただれた子供たちの写真を見て、「かわいそう！ どうしてこうなったの？」と尋ねるお子さんが、たくさんおりました。

会場には、古川市議会が可決した意見書も掲示しました。立ち止まって、この意見書を、しっかり読んでいく方が、大勢おりました。中には、「こうした意見をあげることは、大変よいことですね。」と言っていく方々もいらっしゃいました。

3 ところが、情報保全隊は私たちのこれらの活動を監視していたのです。

ア 情報保全隊の資料には、平成14年12月19日と、平成15年10月1日の意見書が、全会一致で採択されたことや、古川市議会議長名で内閣

総理大臣、及び防衛庁長官宛に提出されたことが、記載されています。

これらの情報は、新聞や、古川市の市政だよりには載っていません。実際に議会を傍聴するか、議事録を見ないと分からないことです。

情報保全隊は、どのようにしてこれらの情報を手にいれたのでしょうか。

イ また、情報保全隊の資料には、意見書の提出者として、「P及びSの連名」という記載があります。情報保全隊の資料によればPは共産党を指し、Sは社民党を指しています。この提出者P市議とは私のことです。

議会に提案した意見書には、提出者の議員の氏名が記載されていますが、所属政党や、会派の名前は記載されていません。情報保全隊の資料には、提出者と、賛成者の、全ての所属政党が記載されています。情報保全隊は、各議員の所属政党までも調査していたのです。

しかも、情報保全隊の資料には、平成15年10月1日の情報に、参考事項として、1年前の議会や議員の活動を記載していました。このことは、情報保全隊が、長期間にわたって、系統的・日常的に、私たちの情報を収集していることを示すものです。

ウ また、情報保全隊の資料には、1月20日から1月28日までの間、「イラク・戦争とこどもたち」と題する写真展が実施されたことが記載されています。

子供たちや市民の方々に、戦争の実態を伝えようとする活動までもが、監視されていたのです。

しかも、情報保全隊の資料には、この写真展の会場の入り口に、市議会だよりから抜粋された意見書が、掲載されていることが、記載されています。このことは、情報保全隊が実際に写真展に来て、私たちを監視していたことを示すものです。

4 地方自治は、そこに住む住民によって、自分たちが住む町のことを決めるというものです。

ここには、自衛隊が関与するようなことは何もないはずですが。議会に市民の声を反映させる活動を行っている議員を、監視するということは、地方自治や民主主義に対する重大な挑戦です。自衛隊の思い通りにならないものは、邪魔者扱いにし、排除したいという思いがあるとしか思えません。

世界には歴史上、軍事クーデターにより独裁政権が誕生し、政敵を弾圧し殺害するようなことが繰り返されてきました。

この日本でも、戦前においては、特高警察や憲兵などの手で、戦争に反対する人々や、民主主義を唱える人々が検挙され、拷問され、殺されることもありました。

そればかりか、庶民の当たり前の日常生活までもが、監視され、弾圧されてきたのです。

古川では、戦前の「人の道」、現在のPL教団の信者さん方が、月3回の集いをやっていたそうです。その集いに参加した当時小学生だった人の話によりますと、集会の席に、突然、6人の特高警察が踏み込み、「動くな！」と言って、その全員を強制的に連行していったそうです。

子供たちは逃げ出したそうですが、その方は、そのときのことを、とても恐ろしかったと語っていました。

戦前は、小作制度のもとで農民は大変苦しめられました。古川でも、不作で小作料が払えず、餓死せざるを得ないような状態になった小作人たちが、地主に、何とか小作料を安くするように頼みに行っただけでも、警察の取り締りの対象となりました。農民が集まって相談することすらも、警察に弾圧されたということ、聞きました。

こうした、歴史を見ると、情報保全隊がやっている国民監視は、自衛隊の気に入らない国民を弾圧することができるようにするため、日常的に国民を監視し、ブラックリストを作っているのではないかと、不安になります。また、平和を守る活動や、暮らしを守る活動に参加すると、とんでもないことになるぞ、という恐怖感を私たちに与えています。

私は、ギャンブル場誘致に反対する活動を行っていたことがありました。このとき、私は、銃刀法違反や傷害事件で前科八犯の者が主謀格をしている右翼団体の構成員4～5名に襲撃され、ケガを負わされました。昭和61年3月9日のことでした。

このことが、テレビや新聞でも報道され、ギャンブル場誘致反対の運動に参加していた多くの市民に、大きな恐怖感を与えました。

情報保全隊は、私たちを監視していますが、監視にとどまらず、さらに、何かしてくるのではないかと不安になります。自衛隊は、武器や装備を備えた軍事組織と言える存在です。私は、右翼団体に襲撃されたときよりも、さらに大きな恐怖を感じます。

私には、妻、子供、孫がおります。私たちに、何か起こるのではないかと、ある日突然危害が加えられるのではないかとという恐怖感が、私をおそってきます。

- 5 情報保全隊の監視により、私たち議員は自由に活動することができなくなります。議員の活動が萎縮してしまうと、市民の声を議会に反映させるという議員の職責が果たせなくなってしまいます。市民も自由な表現活動ができなくなります。

裁判所におかれましては、情報保全隊の国民監視の実態をしっかりと把握していただき、民主主義社会を守るためにも、市民の自由な活動を守るためにも、直ちに自衛隊による監視活動を止めさせるようお願いします。